

職場体験を終えて

鱒ヶ沢中学校 3年 B組 葛西俊史(かさいしゅんじ)

全ての職員には「気遣い」がありました。ただ、僕には足りませんでした。

僕がこの職場、社協を選んだきっかけとは、このようなパソコンを用いた打ち込みの仕事をやりたいと思ったことからです。将来の夢はまだ定まっていませんが、パソコンはどの仕事でも使うはずなので、文書ツールなどを使い慣れたいな、という思いでやってきました。たくさん勉強したいと思っていました。

ですが、実際にたくさん勉強になったこととは、グループホームでの触れ合い体験、つまり現場で行なったことばかりでした。

僕は他人とコミュニケーションをとることが得意ではない方です。案の定現場に着いてもなかなか高齢者の方々とは話せずにはいました。

そこで見たのは職員の方々の言動でした。その全ての言動が「気遣い」に溢れていました。実際に、体験2日目には丸一日現場にお邪魔させていただきました。そこで僕は昼食を作る担当となり、17人分のカレーライスと友達と職員さんの、3人で作りました。

そこで職員さんに、具は小さく、薄くなるように切るんだよ、と教えていただきました。これも細やかな「気遣い」のひとつでしょう。喉をつまらせないように、食べやすいようにと配慮したものです。そんなのささやかなことじゃないか、と思うかも知れませんが、僕はとても考えさせられました。僕には「気遣い」が足りなかったからです。

後から、毎日13人分の食事を職員1人が作っていると聞きました。驚かざるを得ませんでした。また、男の職員さんはこの職業に就いてから料理をいくつか覚えた、なんて話もあります。職員の方々も毎日勉強することだらけなんだなあ、と思いました。

他にも、施設全体を維持するためにも掃除や周辺の草取りなどを並行して作業しています。もちろん高齢者との触れ合いも欠かしません。実はこれほど大変なことなのです。体験してみて、よく分かりました。

職員のある方がこんなことをおっしゃっていました。

「辛いときもあるけど、そういう時はみんなで話し合っ解決している。だから楽しいときもある。」

その姿勢がとてもかっこよく、輝いて見えました。

僕には「気遣い」がまだまだ足りません。ですが職員の方々姿勢、相手のことを思いやった物凄く小さな、でも物凄く大事な工夫を勉強しました。

その相手への本当の気持ちとは、とても小さな言動に表れるのでしょうか。僕は足りないその部分に気づくことができたし、もっともっと自分を磨いていきたいな、と強く思いました。